

各地で水害の発生。
心配ですね。

7月15日は日本共産党の創立96周年です。



日本共産党議員団
2018.7.10.1580.

御相談はお気軽に
TELとも FAXとも 3905-0970
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)



こまめに水分の補給を。
熱中症に気をつけて下さい。

86道路計画はやめてください。
本日、東京地裁第2回目
PM33分、103号法廷
私は、裁判を傍聴します。

豪雨災害 救援募金に ご協力を



募金の受付先は

郵便振替
00170-9-140321

日本共産党災害救援募金係
※必ず「豪雨災害救援募金」とご記入ください。
手数料はご負担願います。

東京 民報 03-5972-1621, FAX 03-5972-1590
2018年7月号外 日本共産党災害救援募金係のための特集号

日本共産党

西日本などで集中豪雨による大災害が起きて
います。被災された方にお見舞を申し上げます。
日本共産党は対策本部を立ち上げています。(本部長は
小池晃参議院議員) 救援募金にとりんぐです。

北区議会 オ2定期会
区職員による生活保護費の
横領事件では、6月22日に職
員A(40代男性)を懲戒免職
にしたことを、6月25区長が明らかに。
6月29日の本会議では、区長の責任を問い、
給与の50%カット、3ヶ月の減給処分のための
条例を全会一致で決みました。区長とともに副区長、
教育長もそれぞれ減給としました。元職員Aはその後、逮捕。

旧赤羽台東小は、区民の大切な財産です。

●現在、旧滝6小のあととともに、
今後の活用方法を検討中です。

旧東小について 7/2(月)の夜に開かれた、オ3回目の検
多數の意見 討委員会で、民意
17人から24件 見が報告されました。

○区からのよびかけに、短期間でこれだけ
の意見や提案が寄せられたことは、この
問題への関心の高さを示しています。

○裏面では、5月28日(月)、オ2回目の検
討会で発言された。(地区HPより)
地域の声を紹介
しています。



▲災害時の避難施設もある旧赤羽台東小
ヌーベル赤羽台(赤羽台団地)



平成30年5月末現在

○委員長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、旧赤羽台東小学校地域代表者お願いします。

○旧赤羽台東小学校地域代表者

赤羽台西小学校の保護者からの意見を発表いたします。

東小学校は自然環境に恵まれ、かつてはたくさんの児童が楽しく通い、良好な教育環境を提供してくれた貴重な場所であったと存じます。よって、東小学校の跡地利活用にあっては、ぜひ、当時の目的と同じように、子どもたちのために還元できるような、有効活用を願っております。

そこで、保護者からは、旧赤羽台東小学校の跡地についてぜひとも子どもたちのための活用を願い、近隣の小学校の新校舎建て替えを視野に入れた二つの提案をさせていただきたいと思います。

提案1として、近隣の小学校校舎建て替えの際に、仮校舎として活用すること。提案2として、赤羽台の地域の開発による人口増加を予測した観点から、旧赤羽台東小学校跡地を売却または等価交換し、新校舎建て替えが予定されている現存の小学校の敷地規模を広げることを要望したいと思います。

まず、提案1についてですが、お手元の資料の1と2を参照してください。東小学校は、駅に近く、大変価値のある場所であると同時に、赤羽台西小学校、八幡小学校、桐ヶ丘郷小学校、駅の東側に、ちょっと地図には載っていないんですが、赤羽小学校も1キロ以内の場所に位置しております。赤羽台西小学校にあっては、昭和36年の建設でありまして、建設65年到達年度は平成38年度であるため、あと数年の間に改築・改修計画に入る時期となります。また、それに統いて、桐ヶ丘郷小学校、八幡小学校も、順番に建て替えの時期に入ることでしょう。その際の東小学校は、建て替え予定の近隣小学校の仮校舎として有効活用できるのではないかと考えます。子どもたちにとって、新校舎になることは、夢と期待を膨らませますが、しかしその反面、改築工事中の二、三年間は、仮校舎で大変不便な生活を強いられます。ふだん通い慣れた学校とは違う仮校舎までの毎日の登下校は、子どもたちの体力の負担のみならず、精神的にも相当なストレスが伴います。せめても、距離的に少しでも近く、かつ安全なルートで登下校できるような仮校舎であることが望されます。そう考えたときに、この東小学校の立地条件としては、周辺の小学校の改築・改修計画に合致する適当な場所であると思います。

続きまして、提案2、地域の開発による人口増加を予測した観点から、東小学校を新校舎建て替えが予定されている現存の小学校の敷地規模を広げることに活用することについて説明いたします。

まず、ご存じだと思いますが、東小学校の周辺地域における昨今の状況としては、URのヌーヴェル赤羽台団地の建設、東洋大学新設学部の開設、また、桐ヶ丘中学校サブファミリープロック内である赤羽台西小学校、八幡小学校、袋小学校、桐ヶ丘郷小学校による、4校を3校に統廃合しようという学校適正配置検討協議会があつたことなど、目まぐるしくさまざまな変化が起こっておりました。

平成30年5月28日(月)に開かれた
第2回跡地利活用検討委員会
議事録が公表されました。
その一部をご紹介します。

学校適正配置検討協議会は、2年の協議を経たものの、平成30年2月の協議で一旦終了しました。その終了の理由としては、簡単に言えば、周辺の集合住宅の整備計画がいまだに明らかになっていないということでした。つまり、ここ数年で、この地域の開発が未定であり、また、ひいては人口増加の動向が予測できないということでありました。

適正配置検討協議会で配付された資料、お手元の資料の3番をごらんください。この3番の資料の赤羽台西小学校を指定校とする地域に、新たに1,300戸の集合住宅と、赤羽西五丁目200~300戸の国家公務員住宅、合計1,500以上の新規住宅が建設される予定です。この黄色い部分がそのところになっています。そうすると、おのずと人口増加が見込まれます。地域周辺の開発に伴う人口増加の予測は、今の赤羽台西小学校の約300人の児童の3倍以上の1,000人になる予想だそうです。もともとは、昭和30年代、40年代当時、東洋一と呼ばれていた赤羽台団地の多くの子どもたちを、この赤羽台東小学校と、赤羽台西小学校の二つの小学校で受け入れをしていたものだと聞いております。しかし、そのピークを去り、平成17年に赤羽台東小学校が閉校となり、今この赤羽台の地域には赤羽台西小学校1校残っているのみです。そうなると、一番心配なのは、今後児童増加が予測される中で、赤羽台東小学校が現存しない今、西小学校の1校のキャパシティの敷地面積及び校舎の規模では、この地域の子どもたち全てを受け入れれるということができるのか、大変不安に感じます。

そこで提案したいのは、先ほど提案1でも述べたように、昭和36年に建て替えられた西小がここあと数年で新校舎建て替えのタイミングになると思います。そこで、たとえ人口が増加したとしても、子どもたちの受け入れに余裕の持てるだけの規模の新校舎を建て替えるべきだと思い、ぜひ、敷地規模を広げることを検討してほしいと思っております。今の西小には約300人の児童が通学しておりますが、ピーク時よりも児童数は安定しております。しかし、実際のところは3年前、平成28年度からわくわく赤西ひろばと学童施設を校舎内に開設したことにより二つの教室が使えなくなり、また、それらのわくわく赤西ひろばと学童施設に関しては、子どもたちがゆったりと放課後を満喫して過ごせるだけの広さは今はありません。また、今はこの西小には学童を希望したくても入れない待機児童が12名もおります。もっと学校に併設されている学童の教室に余裕があつたら、全ての児童が受け入れられるのにねと、保護者も嘆きの声が上がっています。したがって、この赤羽台西小学校の新校舎建て替えになったタイミングにあわせ、かつ、近隣の地域開発によって児童数の増加が予測されることを視野に入れて、ぜひ十分な広さの校舎、十分な広さの校庭を望みたいと思います。

また、赤羽台東小学校の地域の特徴であるUR都市機構の用地と一体化ということを観点に、より整備させていただいたら、より有効な活用ができるかと思います。ぜひ、その要望の上で、赤羽台東小学校と近隣の建て替えの小学校の必要性、有効性をご検討くださいことを希望いたします。

○委員長

はい、どうもありがとうございました。

5/28の第2回検討委員会では、旧東小の地域代表として、青少年地区委員会、自治会、西小の保護者、八幡小の保護者の4名が発言。